



詳細設計照査要領(その4)

技術基準の種類:業務委託
通知日:平成10年4月1日

成果品の照査項目一覧表 (照 査)

業 務 名: _____

発注者名: _____

受注者名: _____

照査の日付: 平成 年 月 日

	照査技術者	管理技術者
受注者印		

成果品の照査項目一覧表(様式 - 3)

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ③		備 考
				該当 対象	照査	
1	設計計算(土木)	1) 安定計算結果は許容値を満たすか。(撓み量、変位量、安定に対する安全度) 2) 荷重、許容応力度の取り方は妥当か。 3) 荷重図、モーメント図等は描かれているか。 4) 施工を配慮した計算となっているか。 5) 作用応力度は許容値を満たすか。	設計計算書			
2	建築設計	1) 荷重、許容応力度の取り方は妥当か。 2) 作用応力度は許容値を満たすか。	設計計算書			
3	基礎工	3) 設備容量計算は適正か。 1) 杭径、杭配置は適正か。 2) 杭頭処理、杭の継手位置は適正か。 3) 地盤改良の配置は適正か。	設計計算書			
4	設計図	1) 縮尺は共通仕様書、特記仕様書と整合しているか。 2) 全体一般図等に必要な項目が記載されているか。(水位、地質条件等) 3) 使用材料は計算書と一致しているか。	設 計 図			

成果品の照査項目一覧表（様式 - 3）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ③		備 考
				該当 対象	照査	
		4) 構造詳細は、適用基準及び打合せ事項と整合するか。 5) 各設計図がお互いに整合されているか。 ・ 一般平面図と縦断図 ・ 構造図と配筋図 ・ 構造図と仮設図 6) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。(特に応用計算、安定計算等が適用範囲も含めて整合されているか) ・ 壁厚 ・ 鉄筋 (径、ピッチ、使用材料、ラップ位置、ラップ長、主鉄筋の定着長、ガス圧接位置) ・ 鋼材形状、寸法 ・ 使用材料 ・ その他 7) 取り合い部の構造寸法は適正か。 8) 解り易い注記が記載されているか。 9) 計算結果に基づいた、適切な配筋がなされているか。 10) 水位等、設計条件が図面に明示されているか。 11) 図面が明瞭に描かれているか。(構造物と寸法線の使いわけがなされているか)	設 計 図			

成果品の照査項目一覧表（様式 - 3）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ③		備 考
				該当 対象	照査	
6	施工計画並びに仮設備設計	1) 数量計算は数量算出要領及び打合せ事項と整合しているか。(有効数字、位取り、単価、区分…) 2) 数量計算に用いた寸法は図面と一致するか。 3) 数量取りまとめは、種類ごとに、材料ごとに打合せ区分にあわせてまとめられているか。 4) 数量計算の照査がなされているか。	施工計画			
7	設計調書	1) 施工法が妥当であるか。 2) 経済性、安全性が配慮されているか。 3) 工事中の環境面が配慮されているか。	仮設設計計算書			
8	報告書	1) 調書の記入は適正になされているか。(吐出樋管については、樋門・樋管詳細設計要領を利用) 1) 報告書の構成は妥当か。 2) 設計条件の考え方が整理されているか。 3) 比較検討の結果が整理されているか。 4) 工事発注に際しての留意事項が記述されているか。	設計調書			
9	TECRIS	TECRISの登録を行ったか。	報 告 書			

成果品の照査項目一覧表（様式 - 3）

（追加項目記入表）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ③		備 考
				該当 対象	照査	

排水機場詳細設計調書（ / ）

業務名	
機場名	
河川名	
所在地	
事務所名	工事事務所
受注者名	
管理技術者	
照査技術者	
作成年月日	平成 年 月 日

排水機場詳細設計調書（ / ）

工 事 名 称		発注者名			
所在地		設計者名			
敷地 規 制 条 件	主要用途	建 物 概 要	敷地面積	m ²	
	都市計画区域		建築面積	m ²	
	防火地域		延面積	m ²	
	その他の 地域指定		容積率対象床面積	m ²	
			〃 対象外床面積	m ²	
	建ぺい率		%	建ぺい率	%
	容積率		%	容積率	%
	道路種別		国道、県道、市道、町道、村道、私道	道路幅員	東 m、西 m、南 m、北 m
工事範囲	土木工事 一 式 建築工事 「一 式」 機械設備工事「（昇降機設備工事 含， 無）」 換気設備工事 一 式 空調換気設備工事 一 式 浄化槽設備工事 有 ， 無 外構工事 一 式	構造	R C構造， S R C造		
		階数	地 下 階、地 上 階、塔 屋 階		
		工事種別	新 築、増 築、改 築		
		各階床面積	「一 式」		

排水機場詳細設計調書（ / ）

総排水量		m ³ /s		
主 ポ ン プ	形式			
	口径	(mm)		
	吐出量	(m ³ /s)		
	台数			
	設計実揚程	(m)		
原 動 機	定格出力	(kw)		
	形式			
冷却方式				
計 画 水 位		吸水槽	吐出水槽	
	高水位（許容湛水位）			
	運転開始水位			
	運転停止水位			
	運転可能最低水位			

自家発電設備	出力	KVA×	台，形式
自家発原動機	出力	kw ×	台，形式
商用電源	KW（特高，高压，低压）		
除塵機	設置箇所	ヶ所，	形 式
燃料貯油槽	容 量	KL，	形 式

吐出（樋管）ゲート

形式		門 数	
形状寸法	純径間	m×扉高	m
開閉荷重	開時	t，開時	t
開閉装置	形式		t用

排水機場詳細設計調書（ / ）

項 目	細 目	決 定 事 項	決定根拠（基準、その他）	備 考
1．機場本体	1）吸水槽流入部数高			
	2）吸水槽吸込口数高			
	3）ポンプ設置フロア高			
	4）原動機設置フロア高			
	5）吸水槽有効幅			
	6）搬入口幅			
	7）流水方向延長			
	8）流水直角方向延長			
2．吐出水槽	1）水槽幅			
	2）水槽長さ			
	3）水槽天端高さ			
	4）水槽数高			
	5）堤防からの離れ			

排水機場詳細設計調書（ / ）

項 目	細 目	決 定 事 項	決定根拠（基準、その他）	備 考
3. スクリーン受（一次）	1）有効幅員			
	2）流水直角方向延長			
	3）流水方向延長			
4. スクリーン受（二次）	1）有効幅員			
	2）流水直角方向延長			
	3）流水方向延長			
5. 沈砂池	1）沈砂池幅			
	2）沈砂池長			
	3）沈砂池敷高			
6. 吐出樋管	1）設計流速			
	2）樋管断面			
	3）樋管敷高			
	4）設置位置			

排水機場詳細設計調書（ / ）

機電関係

項 目	細 目	決 定 事 項	決定根拠（基準、その他）	備 考
1. 主ポンプ関係 （1）平面計画 （2）立面計画	1）機場全体寸法	流水方向 流水直角方向		
	1）高さ	エンジン室側 GL 管理室側 GL		
	2）基本柱間隔	柱芯 桁行 m 梁行 m		
2. 補機関係	1）エンジン室梁間及び高さ	柱芯間距離 m 床～梁下間高さ m		
	2）クレーン型式容量	型式…容量 ト／ ト		
	3）換気設備	方式…容量 m3／s× 台		
	4）エンジン室搬入口寸法	高さ m 幅 m		
	5）電気室天井高さ	m		
	6）操作室天井高さ	m		
	7）電気室・操作室搬入口	高さ m 幅 m		
	8）煙突の諸元	方式…形状内径 m×m 高さ m		

排水機場詳細設計調書（ / ）

建築関係

項 目	細 目	決 定 事 項	決定根拠（基準、その他）	備 考
1. デザイン	デザイン仕上等			
2. 構造関係	1) 地震係数			
	2) 構造型式		建築基準 土木に一致	
	3) 使用材料等	コンクリート FC=21N/mm ² 鉄 筋 SD345 (D16以下は SD295使用) 鉄 骨 SS400		
	4) 各所部材厚	床版 エンジン室屋根 t = M/M 一般屋根 t = M/M 一般床版 t = M/M 壁 エンジン室外壁 t = M/M エンジン室内壁 t = M/M 一般室外壁 t = M/M 間仕切壁 t = M/M 階段 床版 t = M/M 壁 t = M/M		
	5) 各室の床積載荷重			

排水機場詳細設計調書（ / ）

建築関係

項 目	細 目	決 定 事 項	決定根拠（基準、その他）	備 考
3. 設備関係 (1) 給排水 衛生設備	1) 給水設備	飲料水 洗浄水		
	2) 給湯設備設置箇所	浴室、台所、湯沸室		
	3) 排水設備	浄化槽、公共下水道		
	4) ガス設備	L P G、都市ガス		
	5) 防災設備			
	6) 換気設備	エンジン室 ポンプ室… 展示室 電気室… その他…		
	7) 空調設備			
(2) 電気設備	1) 幹線設備 (100V)			
	2) 動力設備 (200V)			
	3) 電灯設備	照度 ポンプ室 ルクス エンジン室 ルクス 動力室 ルクス 展示ホール ルクス 操作室 ルクス 事務室等 ルクス		
	4) 電話配管設備	・端子盤設置位置 ・設置箇所		

排水機場詳細設計調書（ / ）

建築関係

項 目	細 目	決 定 事 項	決定根拠（基準、その他）	備 考
	5) テレビ共聴設備	屋上アンテナ 設置箇所		
	6) 放送設備	アンプ 設置箇所		
	7) インターホン設備	方式 接続箇所		
	8) 自動火災報知器設備	受信機設置箇所 副受信機設置箇所		
	9) 避雷針設備			
5. 外構整備	1) 施設配置			
	2) 排水施設、排水先			

排水機場詳細設計調書（ / ）

構造物名	仕 様 書					状態	鉛直支持力（t／		杭の応力度（kg／cm2）				杭頭変位量		杭の 打込 工法	備考
	杭種	杭径 （mm）	長さ （m）	杭本数 （本）	杭頭条件		計算値	許容値	圧縮応力度		引張応力度		計算値	許容値		
									計算値	許容値	計算値	許容値				
						常時										
						地震時										
						常時										
						地震時										
						常時										
						地震時										
						常時										
						地震時										
						常時										
						地震時										

構 造 物 名	軟弱地盤対策工 の有無及び目的	軟弱地盤対策工 の種別	対策工の範囲	対策工の効果	支持力（度）		備 考
					計算値 （ t／ m ² ）	許容値 （ t／ m ² ）	

排水機場詳細設計調書（ / ）

構造物名

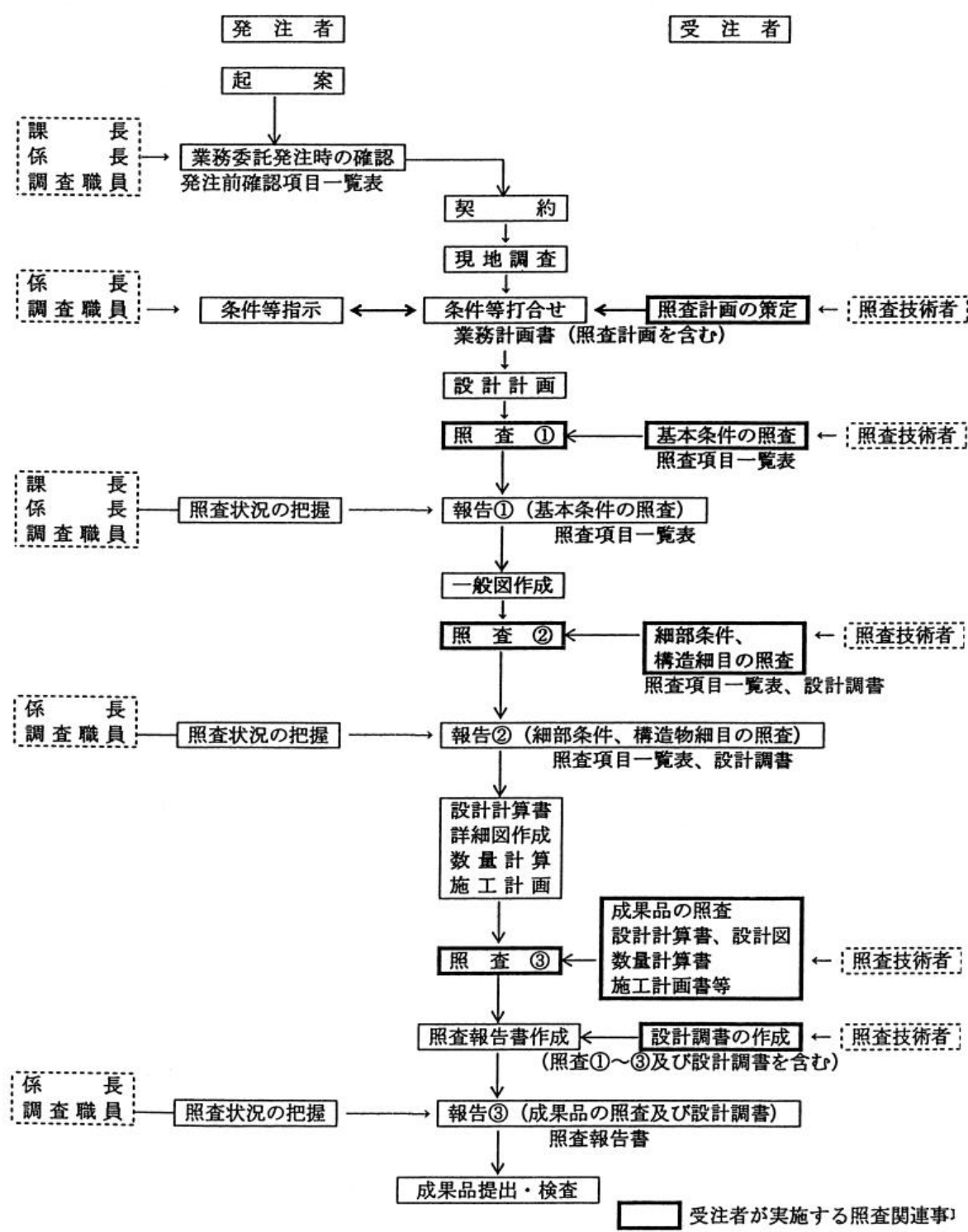
○計算モデル（骨組図、荷重図、応力図等を記入）

応 力 照 査 位 置							
断 面 力	曲げモーメント M (t ・ m)						
	軸力 N (t)						
	せん断力 S (t)						
部 材 厚 (cm)							
使 用 鉄 筋							
鉄 筋 量 As							
発 生 応力度	σ_c (kg/cm ²)						
	σ_s (kg/cm ²)						
	τ_a (kg/cm ²)						
許 容 応力度	σ_c (kg/cm ²)						
	σ_s (kg/cm ²)						
	τ_a (kg/cm ²)						
決 定 し た ケ ー ス							

築堤護岸詳細設計照査要領

平成10年 4 月

築堤護岸詳細設計の照査フローチャート



注 記 ※ 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。
※※ 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画書提出時に打ち合わせにより設定する。

発注前確認項目一覧表

業 務 名: _____

発 注 者 名: _____

確認の日付: _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	課長	係長	調査職員
発注者印			

発注前確認項目一覧表

No.	項 目	主 な 内 容	確 認 資 料	該当 対象	確 認	備 考
1	設計の目的、主旨	1) 築堤護岸整備の目的が明確になっているか。	特記仕様書、共通仕様書			
2	設計の範囲、内容、数量、 履行期間	1) 設計の範囲、内容、数量、履行期間は決定しているか。	特記仕様書			
3	水域名、築堤、護岸名、 設計区間、工事時期	1) 水域名（河川名、池名等）は決定しているか。 2) 築堤名又は護岸名は決定しているか。 3) 設計区間は決定しているか。 4) 工事時期は決定しているか。				
4	河道条件	1) 計画高さ（堤防、高水位、高水敷、河床）は決定しているか。 2) 法線（堤防、低水路）は決定しているか。 3) 河道条件（縦断勾配、水衝部、河床材料等）を把握しているか。 4) 現況河道の整備状況を把握しているか。	改修計画調書			
5	現地踏査	1) 既設構造物及び現在の取付状況等。 2) 支障物件はあるか。	1) 写真、既工事竣工図、 既設計図面 2) 支障物件構造図、既 設計図面			
6	設計基本条件	1) 築堤の計画断面及び施工断面は決定しているか。 2) 護岸形式は決定しているか。 3) 護岸基礎形式は決定しているか。 4) 根固めブロック形状、ブロック重量は決定しているか。 5) 考慮すべき特殊条件は明確になっているか。 又は特殊条件を明確にする資料はあるか。 （水衝部、旧川跡、漏水部、軟弱地盤、耐震設計対象区域、環境 条件等） 6) 安定計算等が必要な時の許容値、計算方法が決定しているか。 又は受注者に提案させるための資料はあるか。	1) 標準横断面図 2) " 3) " 4) " 5) 旧川図、漏水調査 書、地質縦断面図 被災記録、流向ベク トル図			

発注前確認項目一覧表

No.	項 目	主 な 内 容	確 認 資 料	該 当 対 象	確 認	備 考
7	施工上の基本条件	（内部検討による問題点、他事例の問題点など） 7) 締切水位は決定しているか、又は水文資料はあるか。 8) 瀬替、水替時流量決定のための、水文資料等はあるか。 9) 坂路、階段位置、側溝、車両交換場所は決定しているか。 10) 多自然型、新工法等を適用するか。（基本構想ができているか） 11) 用排水系統を確認しているか。 12) 暫定施工等となるか。 13) 移設施設はあるか。 14) 現況河川区域の確認を行ったか。	7) 水文資料（水位記録等） 8) " 14) 河川区域図 1) 地形図 2) 事業工程表 3) 平面図			
8	関連機関との調整	1) 他の工作物管理者との調整は済んでいるか。 2) 地権者及び地元等との調整は済んでいるか。 3) 占用者との調整は済んでいるか。	1) 関連機関との協議書など			
9	資料の確認	1) 改修計画の内容。（平面、横断、縦断） 2) 最深河床等の資料はあるか。 3) 測量成果（平面、横断、縦断）は整理されているか。 4) 地質調査報告書は整理されているか。 追加ボーリングは必要ないか。 軟弱地盤の判定に必要な資料はあるか。 （圧密沈下、液状化、地盤支持力、法面安定、側方移動等）	1) 改修計画の平面図、横断図、縦断図 2) 定期横断面図等 3) 測量成果 4) 地質調査報告書、地質推定縦断図			